

昭和四十八年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議録第五号

館山市議會

目次

日時	場所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	認定第一号乃至認定第七号	議案第八十一号	議案第八十二号	請願書	請願書	日程の追加	議案の配付	発議案第六号	閉会	本日の会議に付した事件
一	一	一	一	一	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一

一、昭和四十八年十二月十七日（月曜日）午前十時
 一、館山市役所議場

一、出席議員 二十八名

一 番	吉 田 勇治郎	二 番	林 豊
三 番	流 山 源次郎	四 番	鈴 木 稔
五 番	近 藤 好 雄	六 番	栗 原 一 雄
七 番	渡 辺 昭 夫	八 番	石 井 武 敏
九 番	辻 田 実	〇 番	渡 辺 軍治郎
一 二 番	藤 田 益 治	一 三 番	五十嵐 昇
一 四 番	伊 賀 多 朗	一 五 番	和 田 一 郎
一 六 番	辻 井 謹 爾	一 八 番	安 西 益 男
一 九 番	島 野 茂樹郎	二 〇 番	君 塚 喜 三
二 一 番	鈴 木 市 蔵	二 二 番	田 村 源治郎
二 三 番	菊 井 敏 博	二 四 番	西 村 真 次
二 五 番	安 沢 徳 順	二 六 番	飯 田 義 男
二 七 番	望 月 照 正	二 八 番	田 中 禄 郎
二 九 番	秋 山 六三郎	三 〇 番	遠 山 ヨネ子
一、欠席議員 一名			
一 一 番	山 本 昇		

一、出席説明員
 第一号に同じ

一、出席事務局職員
 第一号に同じ

一、議事日程（第五号）

昭和四十八年十二月十七日午前十時開議

認定第一号 昭和四十七年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十七年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十七年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十七年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十七年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十七年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

昭和四十八年度における期末手当の割合等の特例に関する条例の制定について

昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

昭和四十七年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

昭和四十七年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

開

議 午前十時四十五分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数三十八名、これより第四回市議会定例会第五日の会議を開会いたします。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和四十七年度一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

認定第一号 昭和四十七年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十七年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十七年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十七年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十七年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十七年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

決 算 審 査 特 別 委 員 会 委 員 長 報 告

○議長（吉田勇治郎君） 本決算は共に、去る十二月十一日に特別委員会を設置し、付議されたものであります。

よって、これより決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長飯田義男君御登壇願います。

(二十六番議員飯田義男君登壇)

〇二十六番(飯田 義男君) 決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果についてご報告申し上げます。

去る十一日開会の本会議におきまして、本委員会に付託されました認定第一号乃至第七号昭和四十七年度館山市一般会計並びに特別会計決算につきまして、去る十二日、十三日の両日にわたって委員会を招集し、各会計における決算を慎重に審査を行ないました。

申し上げるまでもなく、本決算における計数につきましては、監査委員の決算審査意見書によりまして正確である旨認められておりますし、予算の執行状況についても種々指摘されておるところではありますが、本委員会といたしましては、その審査にあたりまして議会としての立場から予算が議決の趣旨にそって、効率的に執行されておるかどうかを重点として審査を行ないました。

審査過程におきましては、本会議並びに各種委員会で論議された事項等についても、市当局の考えをただし、あるいは、処理状況について報告を求め、今後の行政執行にあたって検討を加える点改善すべき点等を指摘すると共にその善処方を要望いたしました次第でございます。以下、質疑応答等を整理いたしましてその概要をご報告申し上げます。

まず、一般会計歳出総務科中、国道第一二七号線バイパス建設促進につきましては、促進協議会を結成し進められておりますが

之が完成は当市発展の大きな要因と考えますので、早期建設について積極的に対処されるよう要望いたしました。

次に衛生費につきましては、当市の実情からたびたび論議されている問題であります。本委員会におきましても多くの質疑が行なわれました。

ごみ処理につきましては、収集区域の拡大、生活態様の变化等により収集量の増高をみておることは周知のとおりでありまして四十七年度においても一万五千トンが収集処理されましたが、その半分近くは埋立てによって処理されておる現状にあります。この埋立は正木処理場の濠に、いったん投棄し、一月に一回まとめて佐野、長田の埋立地に運ぶ方法で処理されておりますが、最近この附近が住宅地化されてまいっており、特に夏季等においては住民の苦情も出ておるので、この処理方法については十分検討され、改善をはかるよう要望いたしました。なお、最近、特に資源確保が問題になっているとき、ごみの再利用についても研究されるよう要望いたしました。

次に、し尿浄化槽の普及に伴い、維持管理は環境衛生上からきわめて重要な問題でありまして、市においても三人の技術者をもって保健所の主管のもとに指導しており、今年度も七十件程度の指導にあたっておることでありますが、これが十分徹底しない面もあるのでさらに指導の強化をはかるよう要望いたしました。

なお、浄化槽清掃業許可申請について先般行われた清掃審議会に諮問された業者はその内容が適確であり許可すべきであるとの答申も出ておる件につき、その後の経過について説明を求めまし

たところ、新年度から認可をする考えである旨の回答を得ました。

次に水道費中、作名ダム調査設計委託料千百三十五万円が支出されており、この進捗状況について説明を求めましたところ、四十七年度において水源調査とダムの設計調査委託を行ない三八万トンのダムが可能であるとの基本調査結果を得ております。四十八年度事業の目標としては、調査設計に基づく用地買収、二千米ートルにわたる搬入道路の拡幅を予定しており、用地買収については、ダム関係の山林について反当実測で七十五万円、ダム、道路の農地については、反当二百万円、なお場所によってある程度調整していくことで了解に達しております、境界査定、実地測量にかかっております。

ダムの本工事については、四十九年度以降から二カ年で完成させたいと考えて、防衛庁とも折衝をいたしたい旨の説明がありました。

本委員会といたしましては、本市におきます水事情を勘案の上早期完成を強く要望いたしました。

次に農業費中、農業近代化資金の利用状況について伺いましたところ、四十五年度、四十八件九百三十九万三千円、四十六年度三十四件三千八百八十六万円、四十七年度二十四件千八百六十万円の利用があり、そのおもなものは施設の設置資金である旨の説明がありました。

次に水産業費中、構造改善事業、アワビ、サザエ、種苗放流事業補助金等、各種補助金が支出されておりますが、その投資効果については、しばしば論議されておるところでありまして、漁協をはじめ関係機関の協力を得て的確なる効果測定を行ない、科学

的な根拠に基づいた行政指導によって交付の目的が達成されるよう要望いたしました。

次に商工費中、商工会議所補助金二百万円の内容について説明を求めましたところ、百万円については、小規模事業育成のための補助金でありまして、百万円は中小企業の育成に重要な役割を果たしておる商工会議所の運営費として補助しておる旨の説明がありました。

次に土木費中、市営住宅の入居選考委員会につきましては、四十七年度一回のみの開催でありまして、あき室が出た場合、ある程度まとめて委員会にかけており入居希望者は相当期間待たされる事例もありますので、できるだけ多く開催して申し込み者の期待にこたえられるよう要望いたしました。

次に消防費中、防火用水の確保については先日全員協議会におきまして、市当局に要望書を提出いたしましたところでありまして、その建設にあたっては地元寄付金の軽減と合わせて全市的な立場から、地域の需要にこたえられるよう要望いたしました。

次に歳出における不用額についてであります。予算現額二十五億七千六百一十一万円に対し、四千七百七十四万五千九百九十四円でありまして、その割合は一・六％となっております。

本件につきましては、各款にわたり質疑がなされました。特に民生費、土木費、教育費について論議されましたが、個々の内容を検討してみますと、節約によるもの、あるいは入札残によるもの等が主たるものでありまして、いずれも事業執行に支障をきたしたのではないと考えますが、なお、今後予算計上にあたりましては的確なる積算並びに予算の計画的な執行に努力されるよう

要望いたしました。

次に歳入中、市税についてありますが、収入済額八億七千九百三万一千六百十円は前年対比二一・八%の伸び、その徴収率は九八・七%で前年の九八%を上回る結果を示したことにつきましては市当局の努力を認めるものであります。

なお、市税をはじめ使用料等に収入未済額、不納欠損額が計上されておりますので、個々の実態を十分調査、把握され、負担の公平に遺憾なきを期せられるよう要望いたしました。

次に国民健康保険特別会計におきまして、現在の医療費実績、現物給付による老人医療制度実施に伴う医療費への影響について説明を求めましたところ、四十七年四月における市の負担した診療報酬は三千三百二十四万四千八百八十八円、四月では四千四百四十七万、五月三千六百三十七万四千四百十三万、六月三千七百三十万四千二百七十三万、七月三千六百五十四万四千三百六十五万と上昇しております。

また老人医療については、一般の受診率四三九%に対し、老人の場合七五〇%、医療費についても一人平均二万一千四百九十円に対し、七万円となっており、特に本市においては所得制限をなくしてある関係もあって、医療費の増高に大きな影響があると考へてゐる旨の説明がありました。

今後、ますます増高する医療費は、保険税の値上げとなつて市民負担を増大し、一般会計をも圧迫することは必至であり、国の財政措置拡充について強力な運動を展開されるよう要望いたしました。

次に簡易水道事業特別会計におきまして、水道使用料が地域に

よつて格差がありますが、館山市の水道行政の上からも統一することが望ましいと考えるので、今後検討されるよう要望いたしました。

次にと畜場特別会計におきまして、ここ数年来と殺数の減少により一般会計からの繰り入れを余儀なくされており、市においても新年度使用料の改定を検討されておることでありましたが、施設の近代化と合わせて健全な運営に一段の努力を要望いたしました。

次に休養施設特別会計におきまして、鳩山荘の利用状況につきましては、一万八千九百九十名の宿泊者があり、その宿泊率は五七%でありました。これを月別にみると七月、八月の夏季において年間利用者の三六%に達しており、最近冬から春にかけての利用者が増加していることでありました。

本委員会といたしましては、施設の老朽化に伴い、将来の改築計画についても十分検討されるよう要望いたしましたところ、来年は無理と考えるが、再来年あたりには検討したい旨の回答がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要をご報告申し上げた次第であります。地方自治体におきます決算の動向は、地方税の伸び悩みに対し、公共資本、社会福祉の整備による歳出の激増は、都市財政の中央依存を高め、財政構造は逐年弾力性を失いつつある現況にあります。

このような全国的な趨勢の中で、本市におきましても苦しい財政事情に当面しておたのでありますが、本決算書を總体的にみますと、提案理由にも述べられておりますように、消費的経費の

節用と投資的経勢の効率的運用につとめ、財政の健全性を堅持しつつ、予算議決の趣旨にそつて、おおむねその目的を達し得たものと認めるものでありまして、市当局の努力に対し敬意を表する次第でございます。

今後、市当局におかれましては、激動する経済の変化を注視しつつ、さらに経費の節減と財源の確保に努められ、合理的且つ創造的な予算執行によつて市民福祉の向上と市勢伸展にいつその努力を傾注されるよう特に要望いたした次第でございます。

以上、本委員会は付託を受けました認定第一号乃至第七号昭和四十七年度各会計決算はいずれも認定すべきものと決しました。ここに決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果についてご報告申し上げた次第でございます。

満場のご賛同をたまわりますようお願い申し上げて報告を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で委員長のご報告を終わります。

本報告につき、ご質疑願います。御質疑ございませんか。御質疑なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論を行ないます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、認定第一号館山市一般会計歳入歳出決算の認定に反対する討論を行ないます。

市長は、決算に関する説明の中で教育、産業、観光の三本の柱のもとに積極的に行政を推進したと述べております。この決算ではそのように受け取れることはできません。

まず第一に、教育の問題についてですが、学習用材料費八百十三万一千円の中にランドセルの譲与分が含まれております。四十八年度からランドセルの譲与をやめることになりましたが、その理由づけとして、学校にロッカーをつくり学用品の持ち運びをしないということでランドセルの使用をやめました。

ランドセルの譲与を始めたときは、教育の機会均等、父兄負担の軽減ということでしたが、やめるについてはこの教育方針が間違っていたのかどうか。一片の反省もありません。ランドセルの使用をやめたことで父兄負担の軽減という名目はたてたものの、学校は学習だけ、家庭は遊ぶだけという教育方針は、遅れた子供と進んだ子供の格差を増大するという新たな矛盾を引き起こす可能性があります。教育方針に首尾一貫しないものがあります。

もともと、このランドセル譲与が問題になったのは、学校ブルー建設の反強制的な割り当て寄付のことから、一方でくれて、一方で取り上げるという父兄負担の軽減とは全くかけ離れたことから起こったものであります。

学校建設費千八百二十四千円は、船形、北条小、四中のブルーの建設費であります。歳入の面で四中ブルーの寄付金の受け入れがありません。四中の七百七十四千円は決算済みですが、地元ではいまだに寄付金集めをやっております。

目的財源を寄付金に求めること自体問題であるのに、事実が示すように半強制的な寄付にならざるを得ません。市長は、父兄負担の軽減をはかったといっているが、父兄負担を増大させているのが現状であります。

次に、産業についてですが、農業の振興費は予算より二百五十

二内 加
一万八千円の減になっております。四十七年度の予算規模は前年度より一千万円減少しているのに引き続き減少傾向をたどっております。

水産振興費は予算より二百九十五万四千円増加していますが、内容的には見るべきものがなく、農業、水産業ともほとんどが補助事業で市独自として計画性をもって積極的に推進したとは思われません。

特に、観光については一口にいつて何もやっていないの一語に尽きると思います。やったのは、市長の説明にあるように観光キヤラバン、ポスター等によるイメージアップの宣伝だけです。

市長は、北条の海水浴場が館山市の観光にとって宝だという考えは持っているようですが、最近の海岸や海水のよごれを放置している点から見れば、その認識は浅いのではないかと思います。観光とは、自然環境を破壊から守り、豊かに育てることが生命であるということを強調しておきたいと思います。

福祉政策については、老人医療費の無料化を七十歳以上に拡大したこと、零歳児の医療費の無料化を実施したことは、共産党の政策から見れば不十分ではありますが、その積極性を評価したいと思います。

なお、一月から老人医療費の三分の二を国が負担するようになったので、市費負担分の減少から対象年令を六十五歳以上に拡大する可能性も開けたものと思います。市長の英断を求めます。

次に、徴税費として納税組合に奨励金合計千三百五十八万二千五百六十円を支出していますが、地方自治法第二百四十三条の規定は、公金の徴収を私人に取り扱わせてはならないと禁じており

ます。公金の徴収に奨励金を出して取り扱わせることが法に違反するので廃止するよう主張します。

また、町内会長に対する行政委託料として三百七十九万二千二百五十円の支出をしておりますが、町内会は自主的、民主的組織であるのに、これを行政の下請機関化することは民主主義の原則に反するものであります。特に、市の寄付金集めの道具にされている現状は許されません。

次に、議長、市長交際費は合計七十四万の減少というよい傾向を示していますが、食糧費二百万のうち半分は会議用食糧費であります。特に、議会食糧費二十二万四千七百六十円は全廃すべきで、弁当代は各自弁するよう主張します。

企業誘致奨励金二百四十六千円の支出は、総務委員会で誘致条例の廃止を決定したあとで申告されたもので、経過規定で認めたとはいえ不明朗な支出として認められません。

国、県の負担金については土木関係で二千四百万円、漁港関係で千四百万円、国、県の委任事務の補助対象事業の超過負担も三千八百万円、合計七千六百万円と地方財政を圧迫するものになっております。特に、物価の高騰年々増大する行政需要に対応するためにこれらの負担金の解消を強く要求するものであります。

なお、問題になっている三芳企業団の負担金四千十八万円の支出については受益の限度に基づいて合理的に負担率を改定するよう主張します。

次に、歳入の面についてですが、市税収入で予算を一千八百万円超過しています。そのうち個人市民税で一千八百八十二万九千円の増となっていますが、所得税に比較して住民税が高過ぎるとい

り市民の不満があります。したがって、住民税の諸控除を所得税
なみにするよう主張します。

次は、道路舗装の寄付金ですが、予算一千四百万円に対して千
六百二十万円と、二百二十万円の取り過ぎになっております。市
道の舗装は管理者である市が負担すべき行政経費であって、これ
を住民の寄付に求めることは地方財政法第二十七条の四項に違反
しています。すなわち法律では「行政経費を住民に対し、直接で
あると間接であるかを問わず、その負担を転嫁してはならない」
と規定しております。

しかも、寄付の徴収方法は、ほとんどが町内会を通じて半強制
的な割り当て寄付になっていきます。これは地方財政法第四条の五
項に違反しております。

市長は、任意の寄付は受けるが、半強制的な寄付はやらないと
議会で答えておりますが、行政指導は全然行なっておりません。
ここに、市長の反市民的、反動的な側面がよくあらわれていると
思います。行政経費を寄付金に求め、予算化することは違法であり
ますので、やめるよう強く要求いたします。

以上、十一項目にわたって矛盾点を指摘しました。特に、法律
に違反するもの、民主主義に反する行政について反省を求め、昭
和四十七年度一般会計歳入歳出決算の認定に反対するものであり
ます。

次に、認定第二号昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計
歳入歳出決算の認定に反対の討論を行ないます。

当初予算では、国民健康保険税の値上げが三五%見込まれまし
たが、六月の修正で二七・九%になりました。四十七年度決算で

は一般会計からの繰り入れにもかかわらず調定額が六月の修正を
六百四万七千円超過して一億七千九百七十三万三千円となり、保
険税は六月修正より三%の増となっております。約三%の値上
げになりました。年々、医療給付が増大するといえ、保険税は
市民生活の中で大きな負担になっております。

そこで、保険税を軽減するためには、国の支出金の負担率を引
き上げ、四百万もある事務費の超過負担をなくし、課税にあたっ
ては最高制限を撤廃し、所得に応じた高度累進型の課税に改める
とともに、医療費の四〇%を占めるといふ薬剤費の比重を低くす
るために、薬剤メーカーの高い利潤を低く規制する措置が取られ
るよう主張して、昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計歳
入歳出決算の認定に反対するものであります。

○六番（栗原一雄君） 認定第一号乃至認定第七号につきましては
私は賛成するものでございます。

昭和四十七年度当初予算における予算効果を十分考慮し、その
後の館山市の実情に合わせた補正を重ね、当市の財源に適応させ
たものであるかと、私はおおむね財政的措置は適切である。この
ように考えまして賛成いたします。以上。

○九番（辻田 実君） 私も一応認定につきましては了承をいたし
たいと思います。しかしながら、認定にあたりましては二、三意
見を付したいというふうに思います。

まず第一に、四十七年度の一般会計の収入に對しまして、従来
であれば当初予算として補正予算について一定の定率をもって増
加する傾向にあるわけです。

地方自治体におきますところの予算というのは、当初予算とい

うのはかなりのパーセンテージをもって、一〇〇%組むというところではなくて、ある程度の余裕をもって組んでいくわけでございますけれども、今回の決算を見ていきますと、収入財源においてほとんど調定の中でもって予算額を下回って調定している。その額がかなり従来また他市町村におきますところの収入等見ると特に四十七年度の収入については後退ぎみの支出であったという面がうかがわれるわけでございます。

特に、収入未済額がさらにその上に従来にも増して出ておる。収入全体的にあるということについては、私はかなり予算の編成上、また執行にあたって無理が出てきておるのじゃないか。この点についてはかなり留意してもらわなければならない点じゃないかというふうに思います。

そういう点から見えて、支出全体についてもやはりそうした面がかなり出てきているんじゃないか。補正でもって組んでいる中のかんりの事業、そういうものが十分に効果的にやられたかという面については若干の問題点があるように見受けられます。

一、二をあげますと、土木費については道路舗装等については予算編成上また予算財源の問題もあると思いますけれども、これは市長の道路舗装計画には重点施策ということでもって、この四年計画ですかということで設けられた一つの目玉商品であるわけです。それについてほとんどその事業というものが後半に持ち越されていっておるということでございます。これは開発公社からの借入金、その他等もありますけれども、こういう問題についてはやはり年度始めから、むしろ年度前半に行なっていくという形の中でやっていかれるのが好ましいという状況等も見受けら

れます。

その他の事業関係については、そういう傾向がかなりあったわけでもって、そういう面についてはかなりの考慮されなければならぬ点があるのじゃないかというふうに考えます。

それから、国民健康保険会計においてやはり一般会計からの繰り入れ金、これは予算編成のときにできるだけ一般会計の繰り入れ金は伝家の宝刀、最後の切り札として逐次繰り入れるようにという要望をしたわけでございますが、実際の決算を見てまいりますと、繰り入れ金をかなり軸にしながら、パーセンテージは非常に少ないから軸ということはいえませんが、これは完全に支出してしまつた。そして若干の繰り越し、その他出ておりますけれども、そういう面については一般からの繰り入れについてはできるだけ押えるという面がなかった。この面については全体的な意見というわけにいきませんけれども、一般会計から特別会計の繰り入れについては非常に慎重を期していただきたいという意向があるわけでございますから、その点についてそういう形式が見られなかったことについて若干残念に思っております。

委員長の報告の中にもありました。おおむね特別委員会の審議そのものについては了承するものでございますけれども、ただひとつ、四十七年度の財政支出が健全財政であり、かつ有効適切であるという表現が用いられておったわけでございますけれども、このようなか中で見ていきますと、私は決して健全適切ということばが妥当であるかどうかということについても疑問を持つわけでございます。

むしろ、非常に地方財政が圧迫され苦しい中でかなりやりくり

算段をして市の関係の職員の努力によって、どうやら当初予算がある程度事業の面についても大きな事故というんですか、大きな狂いもなく予算によりやくこぎつけて支出できたというふうな、むしろそういう努力の面には敬意を表するものでございますけれども、それが健全であるかどうかということばについて、私はそのものを全面的に肯定するということはむずかしい。解釈できないわけでございます。

その面については、委員長報告そのものはことばの表現、委員会の中のそういう意向でもって方向が出されたわけでございますけれども、その面については私は了承いたしますけれども、執行部等におかれましては、そういう面については十分やはり認識されておると思えますけれども、その上に立って特に四十九年に至っては資源不足によるところの経済情勢も非常なる苦しい面が出てくると思ひまして、四十七年を健全というよりな形の中でもってさらに四十九年度に向うことはむずかしいと思ひますのでその点については全面的に健全でなお適切というばかりではないということ、議員の中にもそういう面については双手をあげてということではなくて、かなりのそういう含みを持ちながら、ああいうことばの表現の中で報告されたということを執行部においても留意していただきたいということを要望いたしたいと思います。決算につきまして、先ほど反対討論がなされて、それらについてはかなりいろいろの問題点もあります。しかしながら、予算に対する決算といたしましては、私はそういうような努力のあとがかなり見られてむしろ御苦労さまであったという面があると思ひますので、そういう面についてはこの決算の認定については、私

は委員長報告そのものを今いいましたような意見は持ちながらも私は賛成いたしたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。討論を終ります。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決を行ないます。採決にあたりましては分割して採決いたします。

まず認定第一号昭和四十七年度一般会計決算についての採決は起立により行ないます。

認定第一号についての委員長の報告は認定すべきものであるとするものであります。委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、昭和四十七年度一般会計決算は委員長の報告どおり認定することに決しました。

ついで、認定第二号国民健康保険特別会計決算を起立により採決いたします。

認定第二号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、昭和四十

七年度国民健康保険特別会計決算は委員長の報告どおり認定することに決しました。

ついで、認定第三号乃至第七号各特別会計決算を起立により採決いたします。

認定第三号乃至第七号についての委員長の報告はいずれも認定すべきであるとするものであります。委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立全員であります。よって、認定第三号乃至第七号の特別会計決算はいずれも委員長の報告のとおり認定することに決しました。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第二、議案第八十一号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案第八十一号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任に

ついて

議案の内容説明

○議長(吉田勇治郎君) 議案の説明を求めます。

(市長本間 譲君登壇)

○市長(本間 譲君) 館山市固定資産評価委員会一名が本日をもって任期満了となりますので、従前の委員であります館石伝蔵君

が最も適任者と考えまして、皆さま方の御了承をいただきたいと思います。以上。

○議長(吉田勇治郎君) 説明が終了しました。御質疑を願います。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略し、直ちに採決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

採決

○議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。

ただいま議題となっております固定資産評価審査委員会選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、固定資産評価審査委員会選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第三、議案第八十二号昭和四十八年

度における期末手当の割合等の特例に関する条例の制定についてを議題といたします。

議案の朗読を求めます。

(書記朗読)

議案第八十二号 昭和四十八年度における期末手当の割合等の

特例に関する条例の制定について

議案の内容説明

○議長(吉田勇治郎君) 議案の説明を求めます。

○人事課長(小沢正治君) 議案第八十二号につきまして御説明を申し上げます。

本議案につきましては、去る十二月六日に人事院から国会及び内閣総理大臣に対して、昭和四十八年度における期末手当の支給の特例措置についての意見の申し入れというのがございます。国家公務員に対して三月の期末手当の〇・五カ月分の中から〇・三カ月を十二月期に繰り上げて支給することが妥当であるということで意見の申し入れがなされたわけでございます。

これに基づきまして、国家公務員につきましては、そのような措置が取られることと相なりまして、その関係から地方公務員についても即時にそのように措置をするように通知がまいったわけでございます。

そこで、この関係につきましては、非常勤特別職についても同様に扱うようにという通知でございますので、今回、ただいま朗読いたしましたような条例を上程したわけでございます。

総括的に申しますと、現在、昭和四十九年の三月期に〇・五カ

月分の期末手当が支給されることになっていくわけでございますけれども、そのうち〇・三カ月分を十二月期末手当の際に繰り上げて支給するというものでございます。

したがって、第一項ではその関係をうたっておりますが、繰り上げ支給でございますので、現在の時点では三月期がそれだけマイナスされまして、〇・二カ月分と修正されるわけでございます。

第二項が館山市長、助役、収入役の期末手当でございますが、これは一般職の給与条例の読みかえる方式の規定になっておりますので、一般職の十二月期末手当が二百が、二百六十となっておりますし、さらに三十追加されますので、これを二百九十と読みかえることによりまして、一般職と同率支給ということになります。

第三項は、教育長の期末手当の関係でございますが、これは一般職の給与の例にならうという規定でございますので、教育長についてはその基本の条例の第三条の規定に基づきまして、この特例条例の第一項の規定が準用されるというわけでございます。

第四項が、議員の期末手当でございます。これは独自の率を規定しておりますので、ここでいう百分の五十というのは三月期の期末手当でございますが、二百六十を二百九十とするのが十二月の期末手当の率でございます。このように今回に限って改めるといふものでございます。

このような措置を取ってまいりますと、いわゆる〇・三、〇・二という関係が個人によってはそのまま〇・三、〇・二で三月期の支給期に〇・五の額に異動が生じてくる場合があるわけでござ

いまして、それを五項で救済措置を取ったわけでございます。三月時点で支給される〇・五カ月分は確保されるという関係でございます。

これはどういう場合に起きるかと申しますと、一月一日に昇給昇格をしたような場合、それから十二月二日以降に就職した場合あるいは十二月一日以前に六カ月の期間が満でなくて欠けておった場合、〇・三の追給分を〇・三未満の支給になる。その差額は〇・二をオーバーする期末手当が生じた場合には、それをその分を支給するというのが五項の規定でございます。議員については発生しませんが、一般職の場合、常勤三役の場合には、はつきりと出てまいりますので、そういう措置をいわゆる第五項でしたわけでございます。

第六項が、十二月二日以後に新たに採用されたものについては三月で支給する期末手当についてはこの特例の適用はしないというわけでございます。

附則といたしまして、第二項で、現在まで支給を済ました期末手当につきましては、それぞれの条例に基づいて支給されたわけでございますけれども、今回の改正によりまして増額支給という形が取られますので、今までに支給した分は内払いとみなすというものでございます。

非常に、簡単でございますが、以上、御説明申し上げます。

〇議長（吉田勇治郎君） 説明が終わりました。

御質疑願います。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

〇議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思っております。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

これより討論を行ないます。討論ございませんか。――討論なしと認めます。よって、討論を終ります。

採 決

〇議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時開会といたします。

午前十一時四十五分 休 憩

午後 一時 七分 再 開

〇議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十三名、休憩前に引き続き会議を開きます。

請 願 登 録 の 上 程

〇議長（吉田勇治郎君） 日程第四、年始及び祝日配達廃止に関する請願書を議題といたします。

（書記朗読）

年始及び祝日配達廃止に関する請願書

請願書の趣旨説明

○議長（吉田勇治郎君） 請願書の趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（一九番議員島野茂樹郎君登壇）

○一九番（島野茂樹郎君） ただいま議題となりました年始及び祝日配達廃止に関する請願について紹介議員を代表してその趣旨を御説明申し上げます、皆さまの御理解をいただき満場一致御採択くださいますようお願い申し上げます次第であります。

請願の趣旨は、今まで正月の三カ日も祝日も休むことなく郵便を配達してきた郵便労働者にせめて正月の二日と三日、それに祝祭日には人並みに休むことを利用者の皆さまに御賛同いただきたいというものであります。

御承知のとおり、郵便事業が政府事業として始まったのは明治四年でありますから、創業以来百年余を経過をいたしております。郵便事業が国の政治、経済、文化の発展向上に大きな役割を果たしてきたことはもちろん、私たち庶民の意思疎通の手段として広く利用され、郵便やさんの愛称をもって親しまれてきたところであります。

近年、社会の発展に伴い郵便物も著しく増加してまいりました。昭和三十年度には四十八億五千五百万通、昭和四十二年度には百億通を突破をいたしております。そして昨年、四十七年度には百二十五億六千万通の多数にのぼっております。昭和三十一年を一〇〇といえますと、昭和四十二年度は二〇七、昨年

の四十七年度は二五八という激増ぶりでございます。

一方、郵便労働者の数でございますが、昭和三十年度七万四千人、昭和四十二年度には十一万七千八百人、昭和四十七年度十二万九千九百人、三十年度を一〇〇といえますと、昭和四十二年が一五九、昭和四十七年度一七五と増加はいたしておりますけれども、郵便物数の増加には追いつくことができません。

このため、区分機を導入するなどして、機械化をはかってまいりましたが、事業の性格から人間労働に依存するところが多く、特に配達関係は機械化するわけにはまいりません。

郵便物の激増、人手不足、交通戦争といわれる中で危険にさらされながら長時間の労働を余儀なくされているのが郵便労働者の実態であります。

郵便労働者は、このような労働条件を少しでも改善するための一つとして、正月二日と三日及び祝日の郵便配達廃止の運動を進めてきたところでありますが、朝日新聞はこの運動について、十二月十日の社説におきまして「全通の年末闘争に望む」と題しまして、郵政当局の労務政策に苦言を呈するとともに「儀礼的な年賀状のために郵政職員が正月三日間、寒風のもとで働き続けなければいけないとは思わない。正月二日、三日は人間らしく休んでもらうことに世間も異議はないだろう。」このように述べまして正月二日、三日の配達廃止に賛意を表しております。

ちなみに、館山郵便局の昭和四十八年正月における年賀はがきの配達状況について、参考までに申し上げますと、取り扱い総数八十万四千通、そのうち正月一日に配達されたものは六十二万三千通、二日には二万五千五百通、三日が二万八百通、そうして四日

も同数の二万八百通となっております。全体の八〇％近くが元日に集中しております。二日と三日を休んだとした場合、約四万通全体の五％が四日にまわされるわけであります。

十二月一日のこれも朝日新聞の天声人語でございますが「おとそ気分のうちは年賀状を毎日ほしいと思うのは人情だが、そのために三カ日まで働いてもらう必要があるまい」という記事のをせまして理解を示しておるところでございます。

激増した郵便物の八〇％はダイレクトメールと呼ばれる企業から大量に出す郵便物でございます。その他官庁関係のものも含めて八〇％、残りの二〇％が家庭から家庭といましようか。そういう郵便といわれております。

この頃は、企業も祝日休むところがたいへん多くなつてまいりました。官庁はもとよりでございます。祝日の配達を廃止しても速達などは従来どおり配達しておるわけでありますから、利用者に大きな御不便をかけるということはないと思ひます。

昭和四十四年六月には日曜配達廃止についての請願を御採択いただき、長年の悲願がかなえられ、皆さまの御支援と御協力に感謝いたしておるところではあります。さらに一步を進めて創業以来百年にわたつて正月の三カ日も祝祭日も一日として休みなく配達を続けてきた郵便労働者のせめて正月の二日、三日、祝祭日には人並みに休み、夢のある生活を営みたいという切なる願ひに重ねて皆さまの御理解をいただき、この請願を満場一致で御採択くださいますことを心からお願ひ申し上げまして、趣旨の説明いたします。

〇議長（吉田勇治郎君） 以上で説明を終わります。

本案に対する質疑を求めます。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論はございませんか。――討論なしと認めます。

採 決

〇議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本請願書採択すべきものと決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて、請願は採択すべきものと決しました。

請 願 書 の 上 程

〇議長（吉田勇治郎君） 日程第五、日常生活必需品の確保の請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願ひます。

（書記朗読）

日常生活必需品の確保の請願書

請 願 書 の 趣 旨 説 明

〇議長（吉田勇治郎君） 請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（九番議員辻田 実君登壇）

〇九番（辻田 実君） ただいま議題となりました日常生活必需品の確保の請願書の趣旨説明をいたします。

最近になりました、日常生活必需品の中で特に紙、砂糖、洗剤等が不足いたしました非常に困った現象が出てきております。これらの品物はどれ一つ欠いても日常生活に大きな影響を及ぼすものでございます。ごく最近になりました、紙、砂糖、洗剤等も店頭に出回わるようになってきたわけでございますけれども、ほんの二、三カ月前の値段の二倍、物によっては三倍近くにもなっております、こういう状況でございます。こういう状態で今、市民も非常に困っておりますとともに、これから先非常に不安をいいておりますでございます。

こうした状況の中において、こうした品物がどうして確保されないかという点につきましては、おおむね中間業者といえますが大資本というんですか、そういうところの売り惜しみにあるんじゃないかということがはつきりされてきておるようでございます。

と申しますのは、政府におきましても通産大臣や大蔵大臣はこうした砂糖とか、紙そういうものはちゃんと計画的に生産してそして供給されておるはずなんだ。しかしながら、現実にはわれわれ消費者のところまではいってないという、こういう現象が目の前に現実の問題としてあるわけでございます。

したがって、これは確かに生産は前年のものは確保されておるといふことでありますけれども、その伸び率は前年に比べて少しは伸びておるようであります、このように不足しておる原因が流通過程の中にあつて買い占め、そういうようなことがいわれております。したがって、これらの品物について館山市の流通過程のいろいろな調査、そのものによってこの流れがスムーズにいくならば、政府が国会の中でも答弁しておりますように、

品物は確保して生産しているんだからということでございますので、これらのものも店頭に十分出回らんじやないかということも考えられるわけでございます。

そうした面について、やはり地方自治体において実態を調査して市民に明らかにすることが非常に市民生活の安定について大切なことだというふうに考えております。そういった趣旨がここに盛られておると思います。

灯油、ガソリン、ガスについても同様でございます。特に、この二、三日来漁船の重油がなくて操業にも出られないというのが各地に出てきております。

私も昨日、船形の漁協に行きましたら、船形ではまだ直接的には出ておらないけれども、もうそうなるだろうという寸前までしておるのが事実だろうということでありました。

農協関係はよくわかりませんが、新聞、テレビ等を見ますと、農業用の重油がなくていろんな団地野菜ですか、保温がきかなくて、温室保温がきかなくて被害が各地に出てるということでございますので、こうした問題についても同じく流通機構を調査されまして、確保に努力していかなければいけないんじゃないかということがここに出ておるわけでございます。

特に、三番目としてセメント、木材、鉄鋼については非常に品不足で大工さん等、家を建てるにしてもとても見通しがたないという状況でもって、商売もできないということが各地に出ております。

勤労者の住宅につきましても、ここ半年ぐらいの間にほとんど住宅ローン等の金融機関からの借り受けが全くできない状態でも

って困っております。ともに、この一年ぐらい前までは貯金をしたりというところでいろいろと貯金をしてきたんですけれども、ここ五回にわたるところの公定歩合の引き上げによって去年まで定期貯金が四分二厘から四分五厘ぐらいであったのが、現在になりますと、一年もので六分というようなことで前に貯金したことはえらい損をしてしまった。こういう問題が現実に出てきておるわけでございます。

二、三日前に千葉に行きましたら、半年もののボーナス貯金をしたものについては、お年玉つきとかいうことでもって〇・五％の利息のうわ積みをして貯金の奨励をしておるといふふうなところが何か所か看板が出ておまして、そういうのを見たわけでございませうけれども、そういうことによって貯金に対する感覚が薄れてしまうと、非常に混乱をするし、むしろ貯金するよりも買ったほうがいいということで購入だめをしますと、さらに一そう品不足が進むというふうに考えられるわけでございます。

こうしたところの貯金に対するところの利子、その他に対するところの救済制度というようなものも考えていくような方向で討議をしていただきたいということでございます。

公共料金の値上げについては、それぞれの公共企業体等の事情等もありますけれども、現在のこのように物価上昇のおりにおいて公共料金を上げるといふことは、そのまま料金の値上げ、物価の上昇を認めることになってしまつて、その波紋というものは非常に大きくなるわけでございますので、公共企業においては当面全面的に公共料金の値上げというものを中止する方向で動いていただくということが一番大切であるわけでございます。こ

いうような趣旨の盛られた請願でございまして、もとより、こういうことは中央政府並びに地方自治体においてもやはり安定さしていくことが妥当だといふふうに考えております。

幸い、現在、国においては生活安定緊急措置法案並びに石油需給適正化法案というものが提案されて、超党派で日曜も返上して今、私が説明しましたような内容について安定、適正流通をはかろうということと審議中でございます。各党に対してこの見解について若干の違いはあつてもここに盛られておるところの五項目の内容について早急に安定させようという方向で進んでおるようでございますので、これらと合わせて館山市においてもこうした内容の安定と取り組む施策ですか、ことが、市民の生活の安定に結びつくものと思つとともに、請願者の人々はどうしたものに対する異常なる不安を持つておるわけでございますので、そうしたものの解消の方向にこたえていくようにしていくことが地方自治体においても賢明なことだと考えまして、請願の趣旨にそいまして、皆さま方の賛同をいただいて御採択いただきますことをお願い申し上げます。趣旨説明にかえる次第でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で説明は終了します。

本案に対する御質疑を求めます。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ございませんか。――討論なしと認めます。

採

決

○議長（吉田勇治郎君）

これより本請願書を採決いたします。

本請願書を採択すべきものと決しますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本請願書は採択すべきものと決しました。

日程の追加

○議長(吉田勇治郎君) ただいま採択と決定されました請願に關連いたしましたして、議會運営協議会の各位より意見書が提出されました。

この際、本意見書案を日程に追加し、直ちに議題といたしましたと思ひます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。

議案の配付

○議長(吉田勇治郎君) 意見書案を配付いたさせます。

(議案配付)

○議長(吉田勇治郎君) 配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 意見書案を議題といたします。

朗読を願います。

(書記朗読)

發議案第六号 物価安定・生活必需品確保に関する意見書につ

いて

議案の内容説明

○議長(吉田勇治郎君) 提出者の説明を求めます。

(二四番議員西村真次君 登壇)

○二四番(西村真次君) ただいま議題となりました發議案第六号物価安定・生活必需品確保に関する意見書案につきまして提案理由の御説明を申し上げます。

本案は、先ほど採択となりました請願書に關連いたしました提案した次第でございますが、最近におきます物価の高騰に加えて生活必需品の不足は、市民生活に多大な影響を与え、ますますその深刻度を増しておりますことは、御承知のとおりでございます。現在、国会におきましては、石油関連二法案が審議されており政府においても積極的な姿勢がうかがわれるところでありますが物価安定といい、あるいは生活必需品の確保といい、いずれも一地方公共団体としてはおのずから限界があり、たやすく解決できる問題ではありませんので、この際、本市議會といたしましては、關係各行政庁に意見書を提出いたし、切実な国民の声を訴えることが時宜に滴するものと考えまして、お手もとに配付のとおり、七名の賛成者を得まして本案を提案いたした次第でございます。満場の御賛同をたまわりますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長(吉田勇治郎君) 説明は終了しました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案については委員会の付託並びに討論を省略し、採決することと御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

閉 会 午後一時四十四分閉会

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よって、会議規則第七条の規定により本日をもって第四回市議会定例会を閉会いたしますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本定例会はこれにて閉会することに決定いたしました。

○本日の会議に付した事件

一、認定第一号乃至認定第七号

一、議案第八十一号、議案第八十二号

一、請願書

一、請願書

一、日程追加・発議案第六号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

吉田勇治郎

館山市議會議員

石井武敏

館山市議會議員

安澤徳順

